統計をみよう

関東農政局統計部
平成30年11月16日

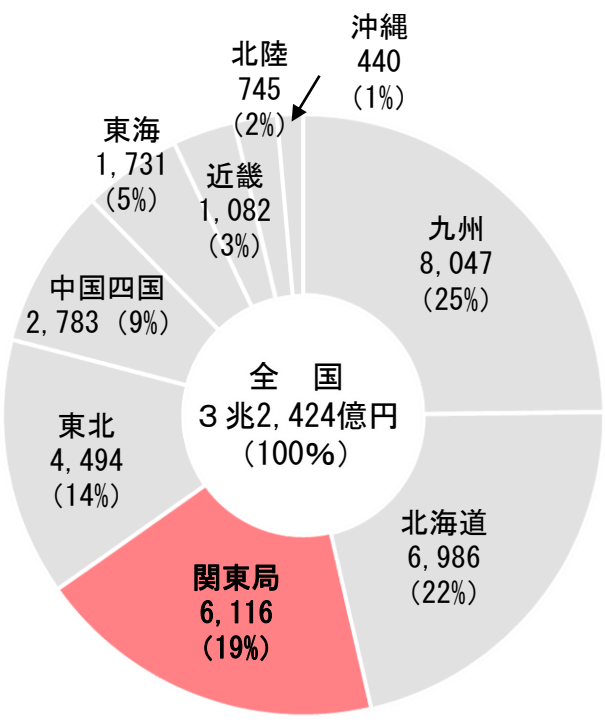
関東農政局管内の畜産

1　畜産の産出額 －生産農業所得統計から－

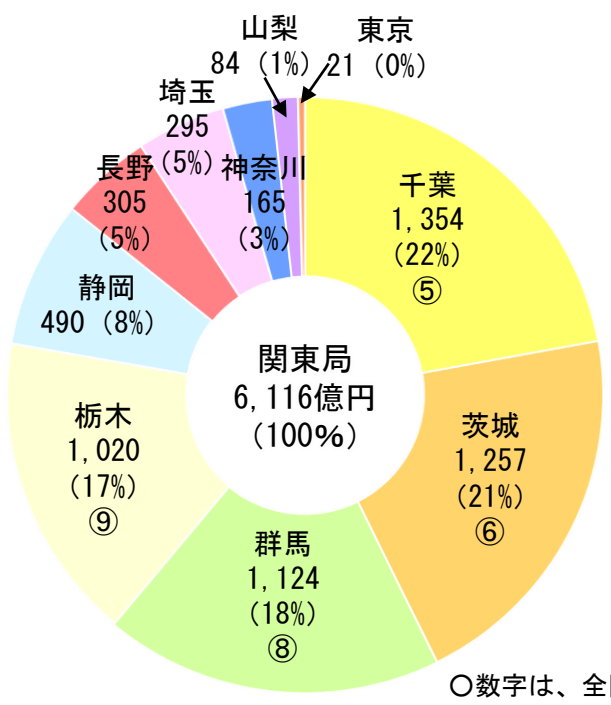
○　関東農政局管内（以下「関東局」という。）の畜産の産出額（平成28年）は6,116億円で、全国の約２割を占めています。
○　都県別にみると、千葉県が1,354億円（全国第５位）で最も多く、次いで茨城県が1,257億円（同６位）、群馬県が1,124億円（同８位）の順となっています。
○　部門別にみると、豚が1,823億円で最も多く、次いで乳用牛1,621億円、鶏卵1,410億円の順となっています。
○　平成元年からの関東局の畜産産出額の推移をみると、15年までは減少傾向、その後24年までは横ばい傾向、25年からは増加傾向で推移しています。

畜産の産出額（平成28年）

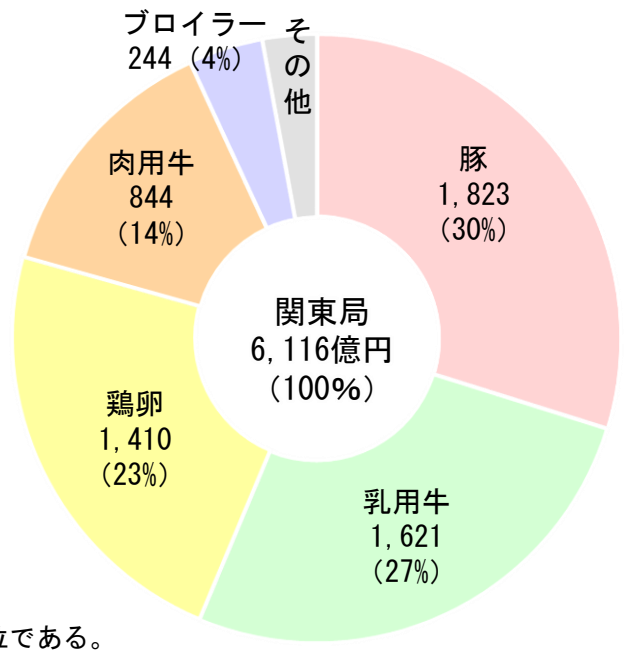
全国・農政局等別



都県別



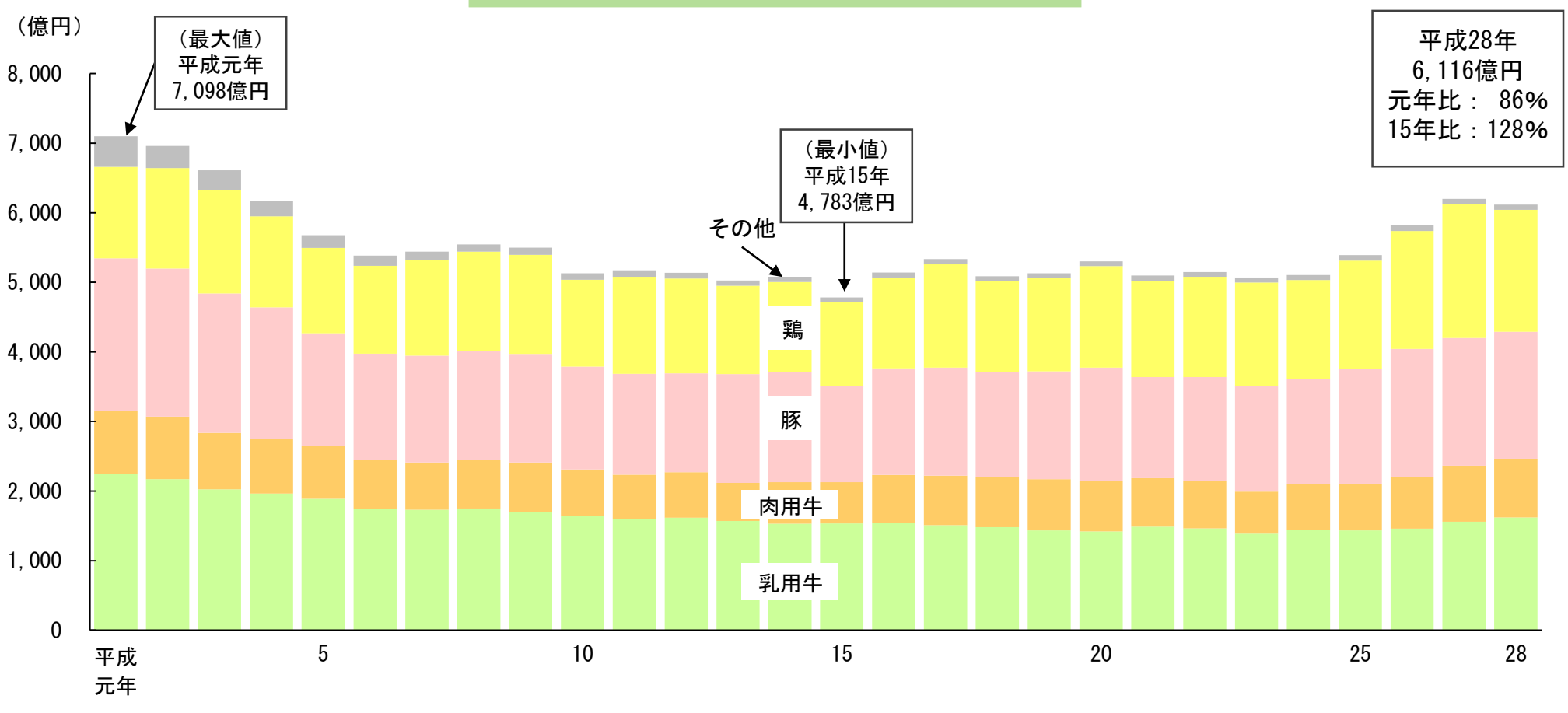
部門別



○数字は、全国順位である。

注：１　統計数値については、表示単位未満の数値を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。
　　２　部門別産出額のその他は、畜産計から図中の部門別産出額の計を差し引き算出した（以下同じ。）。

畜産の部門別産出額の推移（関東局）

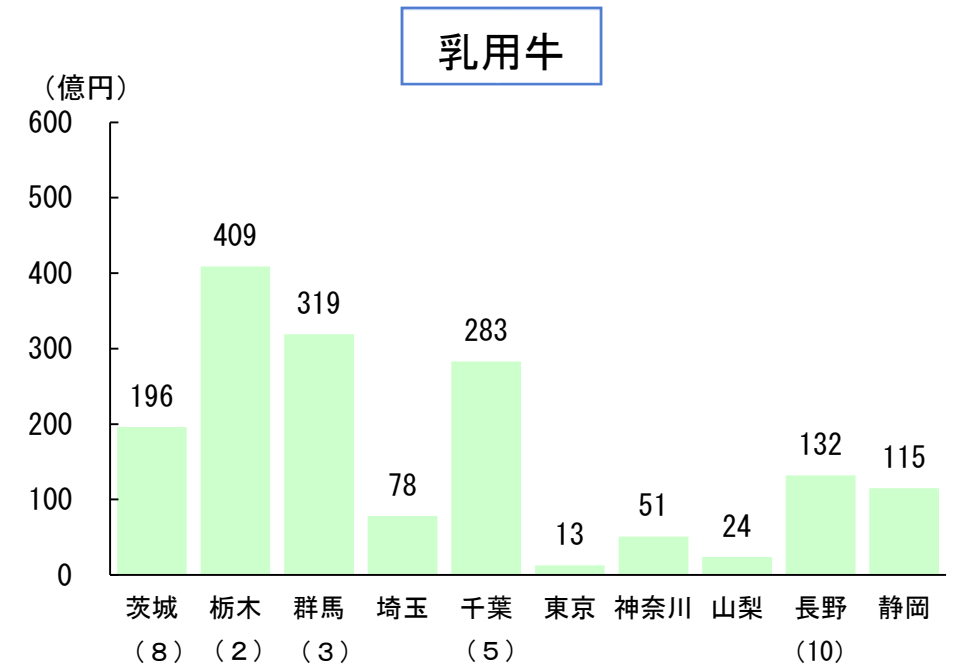


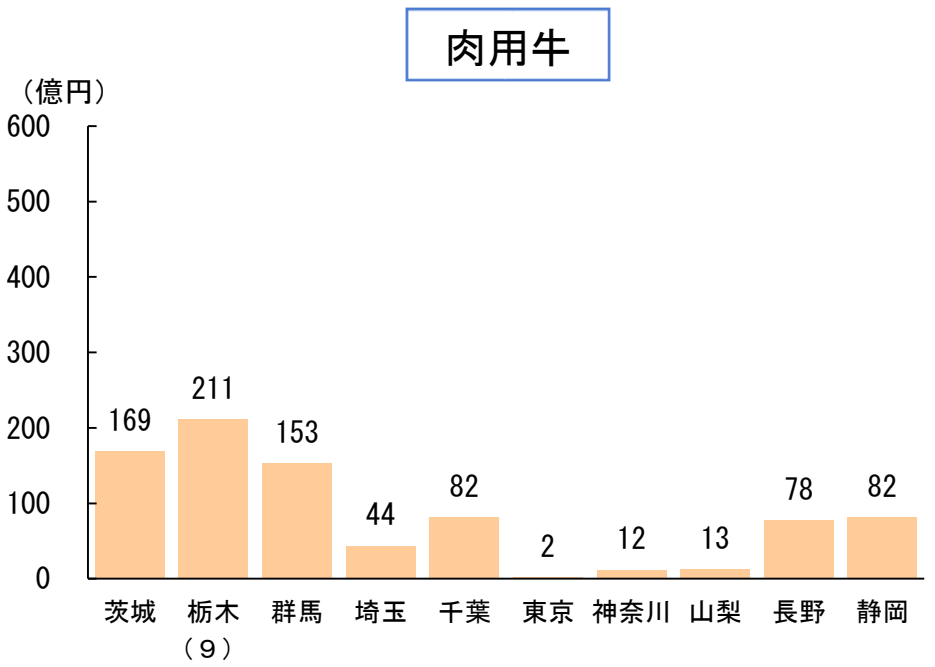
注：１　鶏は、鶏卵、ブロイラー、廃鶏等（以下同じ。　）。
　　２　その他は、馬、はちみつ、うずら卵、養蚕等。

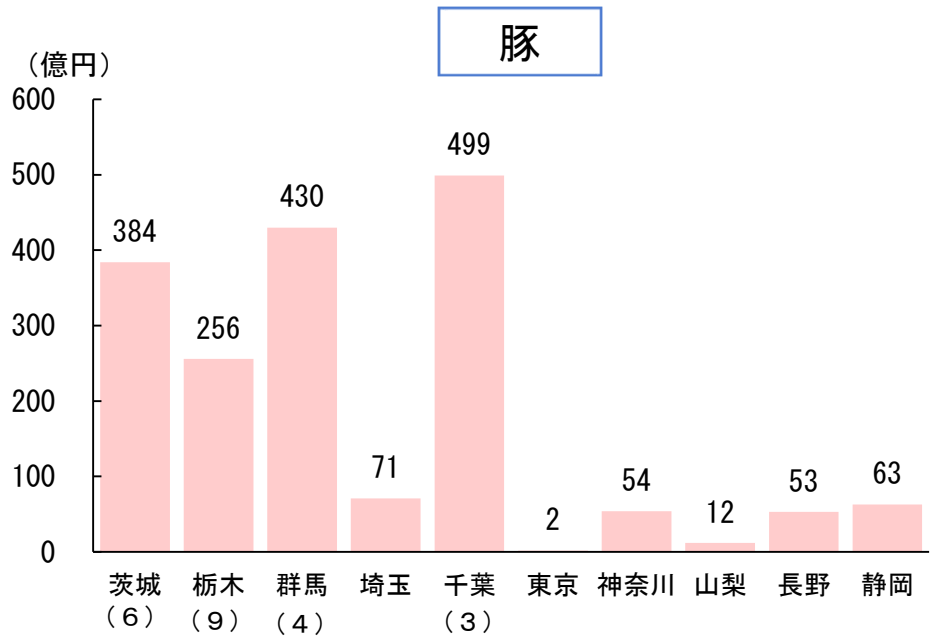
1　畜産の産出額　（続き）

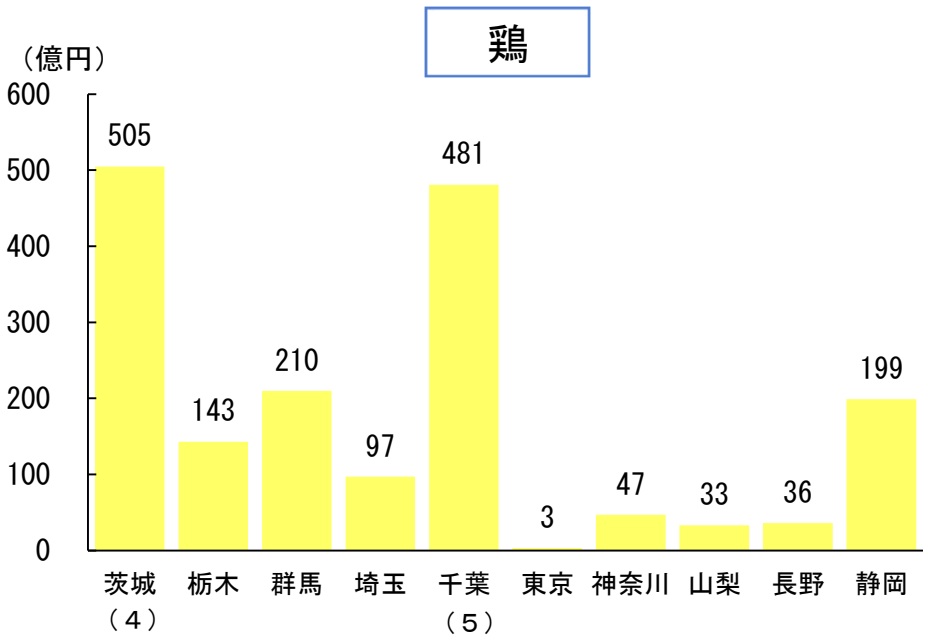
○　畜種別・都県別の産出額（平成28年）をみると、乳用牛は栃木県が409億円（全国第２位）で最も多く、次いで群馬県が319億円（同３位）、肉用牛は栃木県が211億円（同９位）で最も多く、次いで茨城県が169億円、豚は千葉県が499億円（同３位）で最も多く、次いで群馬県が430億円（同４位）、鶏は茨城県が505億円（同４位）で最も多く、次いで千葉県が481億円（同５位）の順となっています。

畜種別･都県別の産出額（関東局）（平成28年）



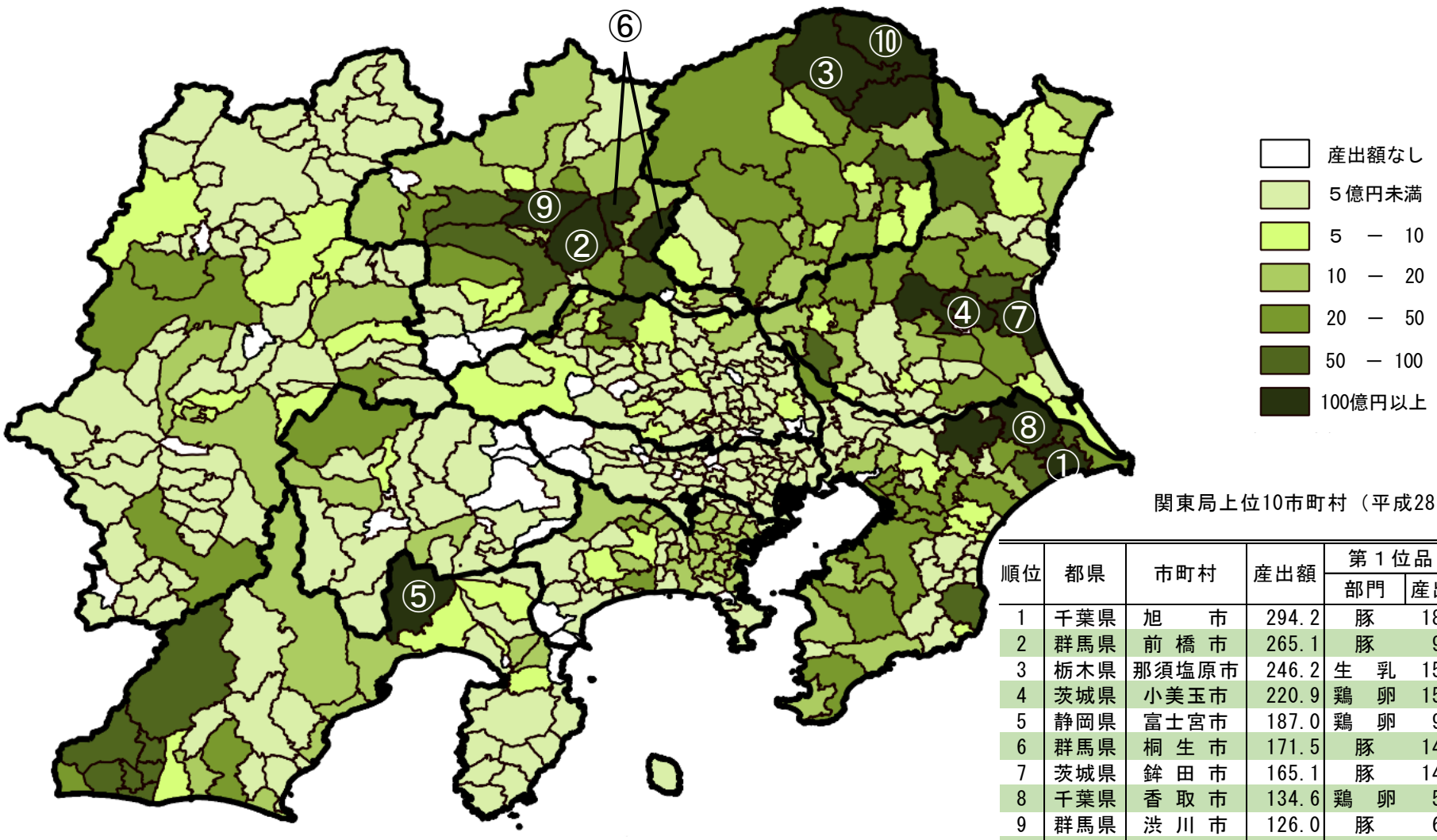






注：都県下の（ ）は、全国順位である（10位以内）。

畜産の市町村別産出額（推計）（平成28年）



関東局上位10市町村（平成28年）

単位：億円

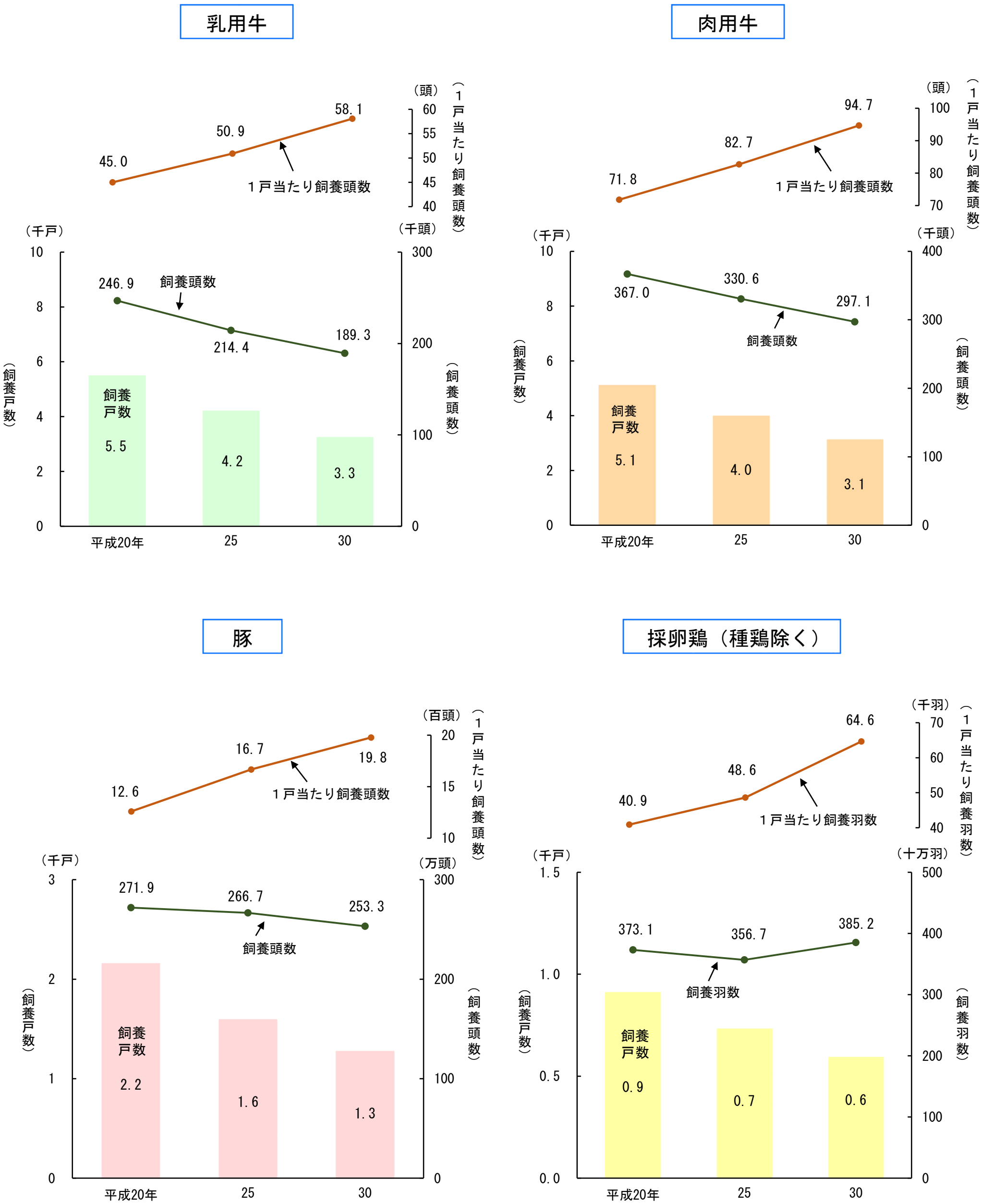
順位	都県	市町村	産出額	第１位品目		第２位品目	
				部門	産出額	部門	産出額
1	千葉県	旭　市	294.2	豚	188.7	鶏　卵	54.8
2	群馬県	前橋市	265.1	豚	97.2	生　乳	69.6
3	栃木県	那須塩原市	246.2	生　乳	155.6	豚	44.3
4	茨城県	小美玉市	220.9	鶏　卵	152.9	生　乳	37.2
5	静岡県	富士宮市	187.0	鶏　卵	95.2	生　乳	43.0
6	群馬県	桐生市	171.5	豚	146.6	生　乳	9.7
7	茨城県	鉾田市	165.1	豚	140.1	鶏　卵	14.5
8	千葉県	香取市	134.6	鶏　卵	53.2	豚	44.6
9	群馬県	渋川市	126.0	豚	61.3	鶏	45.2
10	栃木県	那須町	124.4	生　乳	45.9	肉用牛	32.4

注：地図上の東京特別区及び政令指定都市の境界は区単位となっているが、産出額は特別区計及び政令指定都市計である。

２　畜種別の飼養戸数及び飼養頭羽数　－畜産統計から－

○　関東局の畜種別の飼養戸数、飼養頭羽数及び１戸当たりの飼養頭羽数の動向をみると、各畜種とも飼養戸数は減少傾向で推移しており、飼養頭羽数についても採卵鶏を除き減少傾向で推移していますが、１戸当たり飼養頭羽数は規模拡大により増加傾向で推移しています。

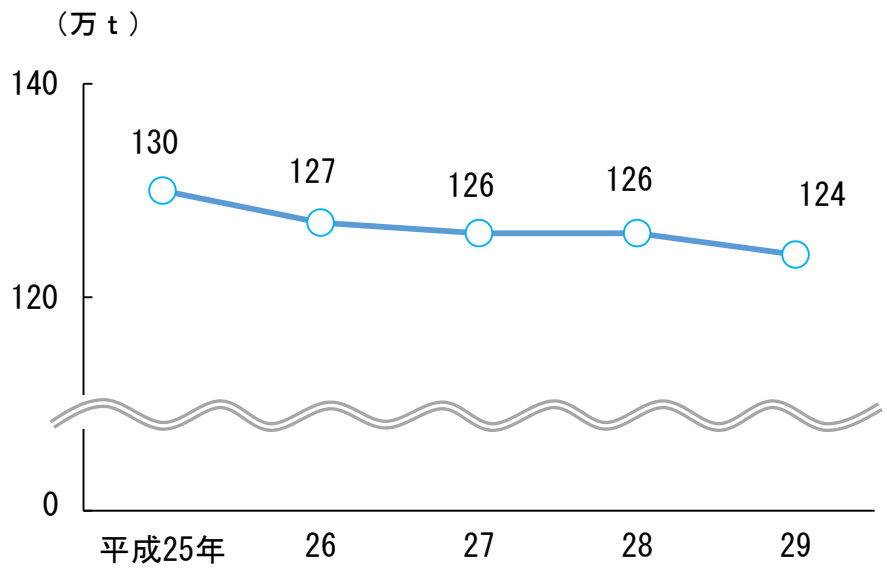
畜種別の飼養戸数、飼養頭羽数及び１戸当たり飼養頭羽数の推移（関東局）



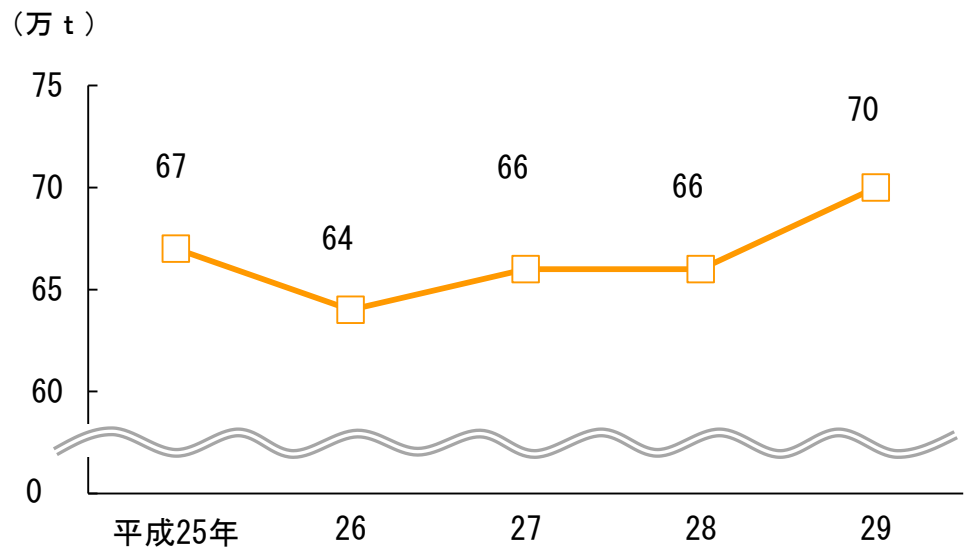
3　畜産物の生産 －牛乳乳製品統計、畜産物流通調査から－

○　関東局の生乳生産量（平成29年）は124万ｔで、28年に比べ２万ｔ（２％）減少しています。
○　関東局の鶏卵生産量（平成29年）は70万ｔで、28年に比べ４万ｔ（６％）増加しています。

生乳生産量の推移（関東局）



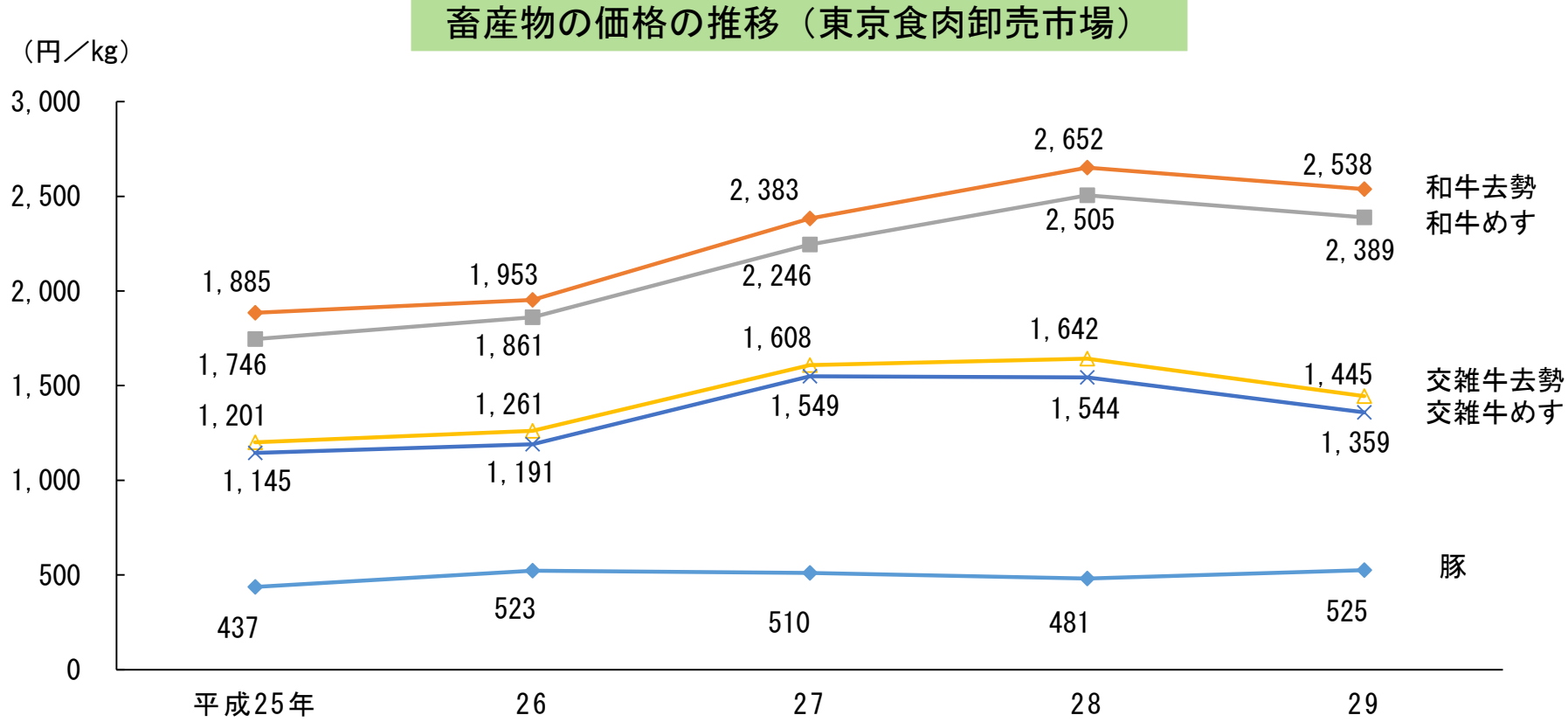
鶏卵生産量の推移（関東局）



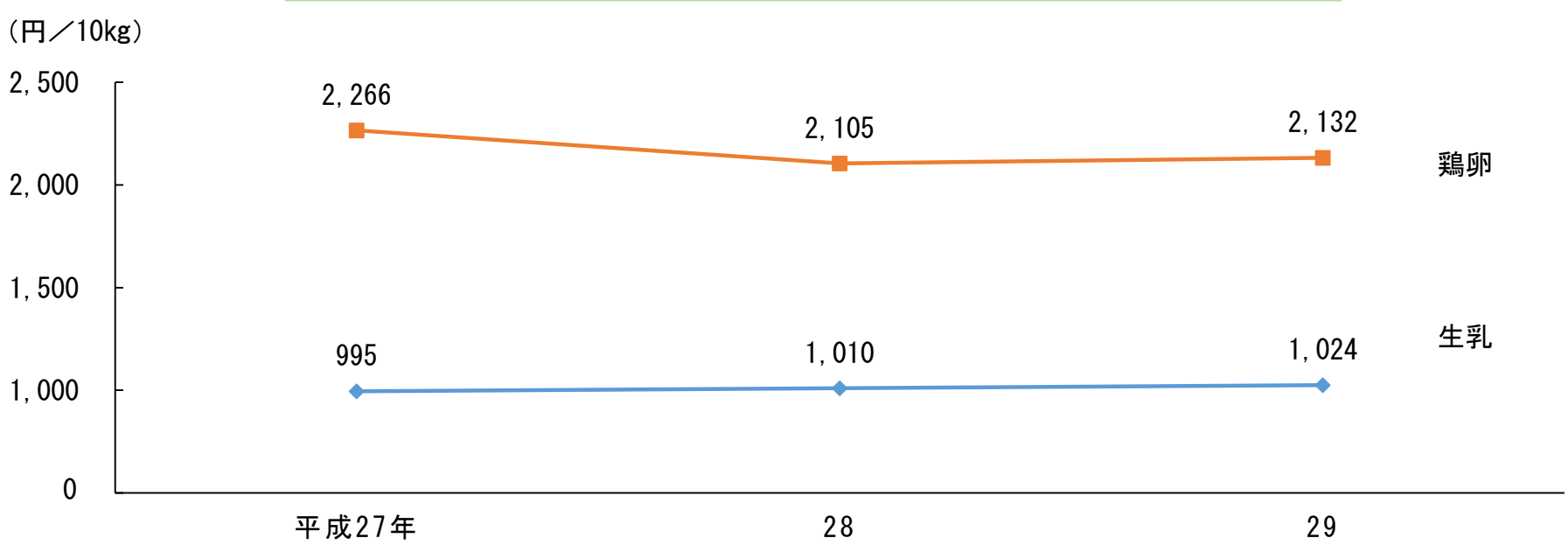
4　畜産物の価格 －畜産物流通調査、農業物価統計から－

○　東京食肉卸売市場における畜産物の価格（平成29年）は、牛枝肉は前年に比べ低下したものの、豚枝肉は前年に比べ上昇しています。
○　農産物生産者価格（全国平均）（平成29年）は生乳価格、鶏卵価格ともおおむね前年並みとなっています。

畜産物の価格の推移（東京食肉卸売市場）



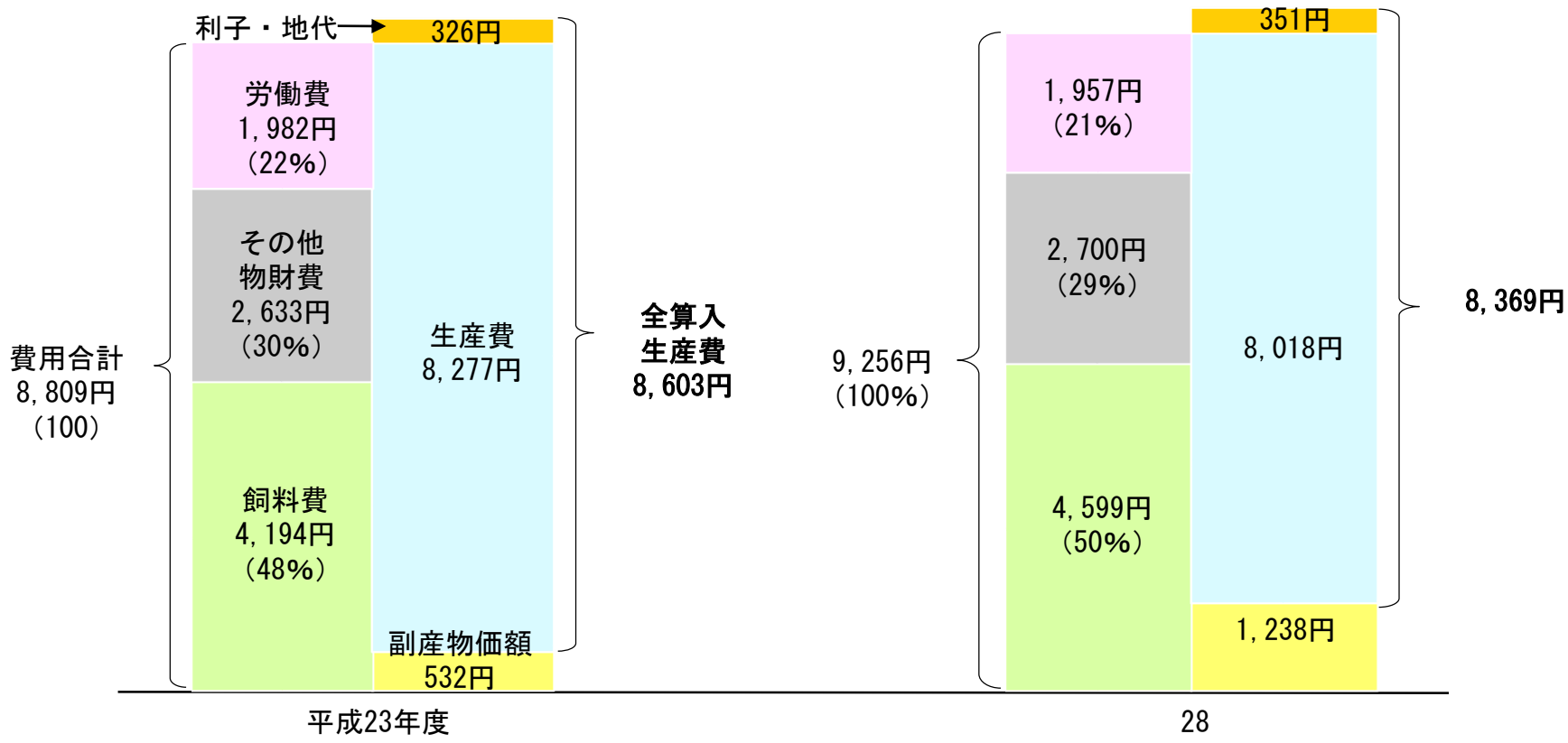
農産物生産者価格（平成27年基準）の推移（全国平均）



5　畜産物の生産費 －畜産物生産費統計から－

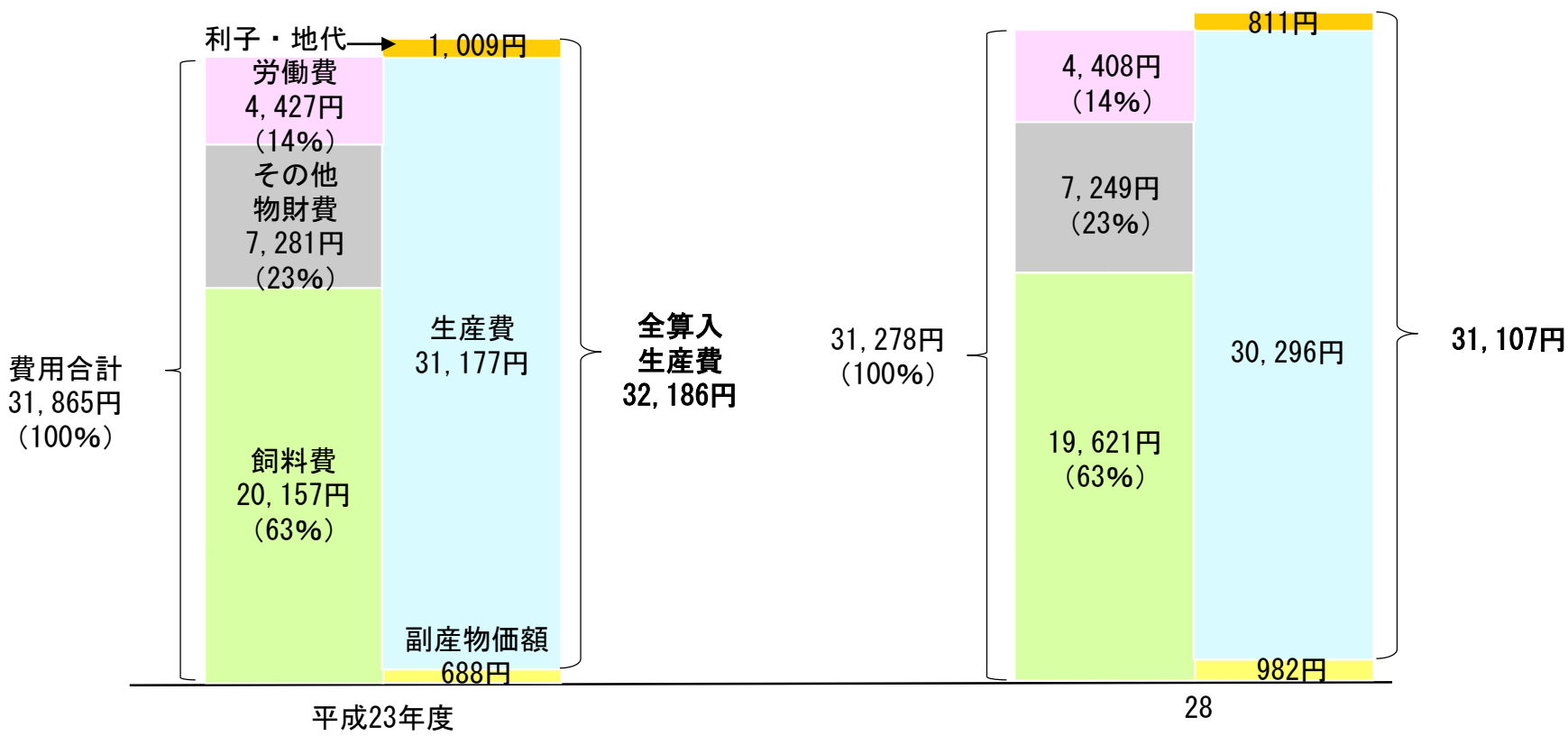
○　関東局の生乳（乳脂肪分3.5%）100kg当たりの全算入生産費（平成28年度）は8,369円で、23年度に比べ234円（３%）減少しています。なお、飼料費は4,599円で、費用合計の50%を占めています。
また、副産物価格は1,238円と増加しました。
○　関東局の肥育豚１頭当たりの全算入生産費（平成28年度）は31,107円で、23年度に比べ1,079円（３%）減少しています。なお、飼料費は19,621円で、費用合計の63%を占めています。

牛乳生産費（乳脂肪分3.5%換算乳量100kg当たり）の推移（関東局）



注：１　（　）内は、費用合計に占める割合である（以下同じ。）。
２　利子・地代は、支払利子、支払地代、自己資本利子、自作地地代である（以下同じ。）。

肥育豚生産費（肥育豚１頭当たり）の推移（関東局）



○　生産費は、主産物（生乳、肥育豚）の生産に要したコスト（費用）のみを把握するため、副産物（子牛、きゅう肥（家畜の排せつ物、敷きわらなどを混ぜて腐熟させた有機質肥料）等）を市価で評価し、その価額を副産物の生産に要した費用とみなし、副産物の生産に要した費用も含まれる費用合計から差し引くことにより算出しています。
　なお、全算入生産費とは、費用合計（物財費＋労働費）から副産物価額を差し引き、利子及び地代を加えた額をいいます。

利用にあたって

1　この資料は、農林水産省統計部が実施又は作成している「生産農業所得統計」、「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」、「畜産物流通調査」、「農業物価統計」及び「農業経営統計調査　畜産物生産費統計」を基に作成したものです。

2　関東農政局管内（関東局）

関東農政局管内（関東局）とは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県及び静岡県の10都県です。

3　統計調査の概要

(1)　生産農業所得統計

ア　統計の目的

農産物の産出額及び所得を推計し、農業生産の実態を価値量的な面から把握して、農政の企画・推進のための資料を整備することを目的としています。

イ　推計方法

本統計は、都道府県を推計単位とし、農産物の生産量及び価格に関する諸統計等を用いて、生産された農産物の価値額を推計しています。

(2)　畜産統計

ア　調査の目的

畜産統計調査は、主要家畜（乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏及びブロイラー）に関する規模別経営タイプ別飼養戸数飼養頭（羽）数等を把握し、我が国の畜産生産の現況を明らかにするとともに、畜産行政の資料を提供することを目的としています。

イ　調査の対象

乳用牛調査については乳用牛の飼養者、肉用牛調査については肉用牛の飼養者、豚調査については豚の飼養者、採卵鶏調査については採卵鶏の飼養者（成鶏めすの飼養羽数が1,000羽以上のもの（ひなのみ及び種鶏のみで、それぞれ1,000羽以上飼養する者を含む。）に限る。）

(3)　牛乳乳製品統計

ア　調査の目的

牛乳及び乳製品の生産、出荷及び在庫等に関する実態を明らかにし、畜産行政の基礎資料を整備することを目的としています。

イ　調査の対象

牛乳処理場及び乳製品工場

(4)　畜産物流通調査

ア　調査の目的

畜産物流通調査は、畜産物の取引数量、価格等を把握し、畜産物に関する生産及び出荷の調整、価格安定等各種施策の基礎資料を提供することを目的としています。

イ　調査の対象

鶏卵流通統計調査：鶏卵集出荷機関（前年の都道府県内年間集出荷量10ｔ未満を除く。）

食肉卸売市場調査：全国の食肉中央卸売市場及び指定市場に所在する全ての卸売会社

(5)　農業物価統計

ア　調査の目的

農業物価統計調査は、農業における投入・産出の物価変動を測定するため、農業経営に直接関係ある物価を把握し、その結果を総合して農業物価指数を作成することを目的としています。

イ　調査の対象（農産物生産者価格調査）

農産物出荷団体等（農業協同組合、出荷組合、集出荷業者又はその団体、食肉卸売市場等）

(6)　農業経営統計調査　畜産物生産費統計

ア　調査の目的

畜産物生産費統計は、牛乳、子牛、乳用雄育成牛、交雑種育成牛、去勢若齢肥育牛、乳用雄肥育牛、交雑種肥育牛及び肥育豚の生産費の実態を明らかにし、畜産物価格の安定をはじめとする畜産行政及び畜産経営の改善に必要な資料の整備を行うことを目的としています。

イ　調査の対象

牛乳生産費：搾乳牛を1頭以上飼養し、生乳を販売する経営体

肥育豚生産費：肥育豚を年間20頭以上販売し、肥育用もと豚に占める自家生産子豚の割合が7割以上の経営体

なお、「経営体」とは、2015年農林業センサスの農業経営体のうち、世帯により農業経営を行っている経営体（農作業の受託事業のみを行う農業経営体を除く）をいいます。

4　この統計調査結果の詳細は、農林水産省又は関東農政局ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

農林水産省ホームページ ＞ 統計情報 ＞ 品目別分類／畜産

【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kensaku/hin8.html 】

関東農政局ホームページ ＞ 統計情報 【 http://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/ 】

5　この資料に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

関東農政局　統計部　統計企画課　　TEL:048-740-0058（直通）　FAX:048-740-0086

漁業センサス

平成31年１月１日現在で、魚市場及び冷凍・冷蔵、水産加工場を対象に、2018年漁業センサス流通加工調査を実施します。

調査票が届きましたら、記入の御協力をお願いいたします。
また、調査票はオンラインによる回答も可能です。